

平成 26 年度 社会福祉法人 桐生会 高齢者総合福祉施設 桐生園 事業報告

【事業総括】

施設での暮らしや地域の人々が安心して生活できるような福祉事業が展開できるよう、また社会福祉法人の使命に基づいて、より充実した豊かな地域福祉社会を創造し実現する事を目的として第二次長期 3 カ年事業計画(計画期間平成26年4月~平成29年3月)を策定しました。その初年度でもある平成 26 年度は、「尊厳と信頼」における施設・事業を目標として具体的計画を各事業ごとに掲げ、法人職員間で情報を共有し、個別ケアの実践とケアの質の向上に主眼を置き、入居者・利用者・家族・介護者・地域の方々の目線で取り組みました。平成 26 年度重点化して取り組んだ内容は次の通りです。

1. 安全で安心な施設の構築

- ①サービスの質向上に関しては、積極的姿勢で幅広く取り組みました。入居者や利用者を中心に据え、参加型の行事・レクリエーション・外出企画を通じて暮らしの充実をはかる事で、前年度よりも入居者・利用者が笑顔で過ごせる時間を共有できました。
- ②事故防止に関しては、リスクマネジメント委員会の機能強化をはかり、施設はもとより法人全体でリスクに対する意識向上が図れました。また、職員個々人の知識経験のバラツキを無くすため、個別的に指導教育を徹底しました。

2. 尊厳ある計画と実践

- ①利用者・入居者の人権を尊重し且つプライバシーと個人情報保護の管理に努めつつ、信頼性の高い福祉・介護サービスを提供するため、尊厳あるケアプラン・個別援助計画に対する充実を図りました。

3. 職員の確保と教育

- ①職員確保については、福祉介護求人フェアや各大学での合同企業説明会、新卒採用サイトの活用やハローワークなど様々な機会や機関、媒体で募集し採用に繋げました。また、実習生の積極的受入とその受入体制の充実も図りました。
- ②職員の教育やステップアップについては、公的な機関(県社協や滋老協並びに行政)が行う外部研修や施設内での年間計画として開催した研修会に延べ 1001 名が参加し、職員の学ぶ意識や熱意も年々高まってきています。
- 新人職員教育については、ブラザーシスター制の活用と OJT の徹底により教育と職員定着促進に取り組むことができました。職員内でも互いに良い刺激を受けつつ切磋琢磨できる職場環境が整いつつあります。

平成 26 年度相談・苦情・要望の概要

平成 26 年度中に高齢者総合福祉施設桐生園に対しての相談・苦情・要望の概要は下記の通りとなっております。

合計件数 6 件	○特別養護老人ホーム桐生園	4 件
	○桐生園ショートステイ	1 件
	○デイサービスセンターなのはな	1 件

以上、桐生園苦情対策委員会で検討し改善策を講じ取り組ませていただきました。また、当法人の第三者委員 2 名の方により、年 2 回苦情対策委員会の講じた対策や委員会機能のチェックを受けさせていただき、真摯に利用される方の声に向き合い適正に対応されていくとご評価いただきました。

今後とも皆様の貴重なご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。